

映画で考える 多様性と共生 / 第4回

『ドリーム』授業ガイド

人種と性別の壁を越える —— 「壁の越え方は、一つじゃない。」

教員用・指導資料（対象：小学校高学年以上）

本資料はAI（Claude / Anthropic）で作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家の監修ではありません。授業での使用可否・場面の選択・学年の適否は、担当の先生が最終判断してください。

1 授業の概要

テーマ	人種と性別の壁を越える（差別の「しくみ」と、声を上げる・学ぶ・ルールを変える力）
教材映画	『ドリーム』（原題 Hidden Figures／2016年・アメリカ／監督：セオドア・メルフィ／原作：マーゴット・リー・シェタリー）
対象	小学校高学年以上。映倫G。人種差別の場面があるが、暴力的な描写はほとんどない
時間	標準90分（45分×2）。上映127分。厳選クリップ・あらすじ紹介を組み合わせる
中心概念	人種隔離の制度／性別による壁／3人の壁の越え方／実話と脚色（邦題変更の経緯も）
ねらい	差別が制度や習慣に支えられていたことを理解し、壁を越えるさまざまな方法を自分の生活にひきつけて考える
準備物	児童・生徒用ワークシート（別PDF）／1960年代の宇宙開発の年表（簡易版）／筆記用具

2 内容への配慮（必ずお読みください）

⚠ 人種差別の扱い

日本の映倫はGで、暴力的な描写はほとんどありません。ただし、**人種による隔離や差別的な扱い**の場面があります。

- アメリカの人種隔離の歴史を**簡単に補い**、特定の人種や国への偏見につながらないように配慮する。
- 実話をもとにしているが、**一部に脚色がある**ことを伝える（上司は複数の人物をもとにした人物など）。
- 外国にルーツのある児童・生徒がいる場合、**特定の子どもに注目が集まらない**ようにする。
- 「今は差別がない」と結論づけず、**現代に残る見えない壁**にも目を向ける。

📄 レイティング・著作権について

- 日本の映倫はG。ただし配信版・ソフトにより表示が異なる場合があるため、使用予定の版をご確認ください。
- 授業での上映には教育機関向けの権利処理が必要になる場合があります。本教材の文章はすべてオリジナルで、ポスター・場面写真は使用していません。

3 宇宙開発と人種隔離（予備知識）

時代背景

1957年にソ連が人工衛星の打ち上げに成功し、アメリカは宇宙開発を急いでいました。コンピュータが普及する前、NASAでは多くの女性が「計算手」として手計算で複雑な計算をしていました。一方、アメリカ南部では、黒人と白人でトイレや学校、バスの席まで分ける**人種隔離の制度**がありました。

キャサリン・ジョンソン

1962年、ジョン・グレンがアメリカ人として初めて地球を周回する飛行に成功します。グレンは、電子計算機の数値をキャサリン・ジョンソンに確認させるよう求めたといわれます。キャサリンは2015年に大統領自由勲章を受け、2020年に101歳で亡くなりました。

💡 邦題変更の経緯（情報リテラシーとの接続）

日本公開前、邦題は当初『ドリーム 私たちのアポロ計画』でしたが、「舞台はアポロ計画ではなくマーキュリー計画」という指摘を受け、『ドリーム』に変更されました。原題 Hidden Figures（隠れた数字／隠れた人たち）の意味とあわせて、**題名がつくる印象**を考える材料にもなります。

3人の「壁の越え方」（板書用）（板書用）

キャサリン・ジョンソン

理不尽を上司に訴え、計算の力で信頼を勝ちとった。

ドロシー・ヴォーン

コンピュータの時代を見こし、プログラミングを学んで仲間と身につけた。

メアリー・ジャクソン

白人しか入れない学校で学ぶため、裁判所に訴えて許可を得た。

共通すること

実力を示し、あきらめず、仲間とともに進んだ。

🎯 この授業の到達目標

差別を支えた制度や習慣を説明でき、3人の壁の越え方を比べて、自分の生活にいかせる方法を考えられる。

4 90分授業の流れ（45分×2）

時間	ながれ	先生の動き・発問
0-8分	導入	原題 Hidden Figures の2つの意味を紹介し、「隠れた人たち」とはだれか予想させる。
8-18分	背景	宇宙開発競争と人種隔離の制度を年表で確認。
18-45分	映画を観る①	3人の職場、キャサリンがトイレのために走る場面（クリップ）。
45-65分	映画を観る②	キャサリンが訴える場面、メアリーの裁判、ドロシーが学ぶ場面（クリップ）。
65-82分	ワーク記入	3人の壁の越え方を比べ、現代の「見えない壁」を考える。
82-90分	共有・まとめ	板書「壁の越え方は、一つじゃない。」で締める。

🌱 まとめ

大きな成功の陰には、名前が知られないまま支えた人たちがいました。差別は、個人の悪意だけでなく、法律や習慣によっても支えられていました。声を上げる、学び続ける、ルールを変える——壁の越え方は一つではありません。

5 映画の背景知識

原題／邦題	Hidden Figures／ドリーム
製作年・国	2016年・アメリカ。上映127分。日本公開：2017年9月。映倫：G
監督・脚本	セオドア・メルフィ（共同脚本：アリソン・シュローダー）
原作	マーゴット・リー・シェタリーのノンフィクション
評価	アカデミー賞 作品賞など3部門ノミネート。日本アカデミー賞 最優秀外国作品賞

主なキャストと役柄

- タラジ・P・ヘンソン（キャサリン・ジョンソン役）：数学の天才。
- オクタヴィア・スペンサー（ドロシー・ヴォーン役）：アカデミー助演女優賞ノミネート。
- ジャネール・モネイ（メアリー・ジャクソン役）：のちにNASA初の黒人女性エンジニアとなる人物。
- ケビン・コスナー（アル・ハリソン役）：複数の実在の人物をもとにつくられた上司。

名前がついた施設

NASAのラングレー研究センターには、キャサリン・ジョンソンの名前をつけた計算研究施設が2017年に開設されました。「隠れた人」が、名前とともに記憶されるようになった例です。

※上記の事実は公開情報（映画.com、AV Watch、Wikipedia等）をもとにしています。細部・脚色には諸説あるため、授業前に必要に応じてご確認ください。

6 発問例・見取りのポイント

Q. 3人の前には、どんな「壁」があった？

→ 人種によるもの、性別によるもの、制度によるものに分けて整理させる。

Q. 3人の壁の越え方のうち、いちばん心に残ったのはだれの方法？

→ 理由とともに選ばせ、自分の生活にいかせる形に言いかえさせる。

Q. 今の社会に残っている「見えない壁」には、どんなものがある？

→ 身近な例（性別による役割の思い込みなど）へ。個人を特定しない。

ワークシートの見取り（評価の観点）

- 差別を支えた制度や習慣を、映画の場面を根拠に説明できているか。
- 3人の壁の越え方を比べ、自分の考えを書けているか。
- 実話映画の脚色を理解し、事実と分けて受け取れているか。
- 意見の発表は強制せず、書いた内容を尊重する。特定の子どもに注目が集まらないよう配慮する。

7 シリーズ全体像

回	映画	テーマ	目安
1	ワンダー 君は太陽	見た目のちがいと友だち	小学校高学年～
2	映画 聲の形	いじめと、向き合うこと	中学生～
3	ズートピア	偏見とステレオタイプ	小学生～
4	ドリーム	人種と性別の壁を越える	小学校高学年～
5	最強のふたり	障害と介助、対等な関係	中学生～
6	グリーンブック	差別と旅、友情	中学生～
7	リトル・ダンサー	「らしさ」の思い込み	小学校高学年～
8	パディントン	よそ者を受け入れる社会	小学生～

8 参考資料（主な出典）

ドリーム 作品情報（映画.com） <https://eiga.com/>

AV Watch「映画『ドリーム 私たちのアポロ計画』の邦題が『ドリーム』に変更」 <https://av.watch.impress.co.jp/docs/news/1064530.html>

Wikipedia「キャサリン・ジョンソン」 <https://ja.wikipedia.org/wiki/キャサリン・ジョンソン>

作品：映画『ドリーム』（2016年、監督セオドア・メルフィ）

© 2026 FilmEdu AI / 本資料はAIを活用して作成しています。授業でのご利用前に事実関係をご確認ください。専門家による監修ではありません。授業での使用可否・場面選択・学年の適否は担当教員の判断によります。作品の著作権は各権利者に帰属します。授業での上映には適切な権利処理（教育機関向けライセンス等）が必要になる場合があります。内容の誤りにお気づきの際はお問い合わせよりご連絡ください。